

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	2070200437		
法人名	社会福祉法人松本市社会福祉協議会		
事業所名	松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ		
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎2139番地1 (電話) 0263-34-0336		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年5月29日	評価確定日	平成20年7月3日

【情報提供票より】 (平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年11月29日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	8,400 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	750 円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 4月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護 1	0	要介護 2	5
要介護 3	1	要介護 4	0
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・みぞうえ内科医院 ・増田歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松本市で最初につくられたホームで、民家改修型である。住宅提供者のお名前を頂き「夢ハウスおおくぼ」と命名した。旅館の離れにきたかと思えるような広い庭が印象的であり、信州の四季が居ながらにして感じられるたたずまいである。6人の入居者で構成されており、第二の我家で暮らしているようである。程よい空間に、好き勝手に言える仲間との生活が自然に送られていることが窺えた。毎週全員で外出することもスケジュールの中に組み込まれている。お彼岸・お盆には、それぞれの入居者の家のお墓参りに皆で行き、手をあわせてお参りをしている。公的なサービスをうまく利用しながら、小人数という長所を最大限に引き出している。楽しいおしゃべりや時には口げんかもするような、素晴らしい仲間関係を長く続けてこられたし、更に今後も続いていくであろうと肌で実感することができた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の要改善事項の介護計画の見直しは、3ヶ月ごとに行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 登録スタッフが大勢いるが同時に話し合う機会がなかなかないため、今回の自己評価は管理者と数人の職員で当たった。他の職員には書類のコピーを渡し各自が自己評価をするようにした。また評価の結果については、職員はもちろん、運営推進委員の方々にも見てもらう予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 昨年度までは毎月ホームでの和菓子教室が開催されており、そこに近隣の住民や市職員などの参加が多くあったため、運営推進会議は1回開催のみに留まっている。しかし会議と設定してないだけで、教室参加者よりの意見交換等があり、ホームへの理解を深めていただくための場面作りがされていた。和菓子教室も一段落したので、今後は運営推進会議の名目で会議を開催して行くことになる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 1人暮らしであった方の入居が多いため家族よりの意見がなかなか聞かれない現状である。権利擁護の制度を利用されている方が数名おられる。家族でなくご本人の毎日の希望などが直接職員に聞かれる状態である。入居者と職員との間で会話を通じて話し合いを行っている。入居者との会話の中から職員への感謝の言葉が何回も聞かれた。職員も常に感謝の言葉をかけている。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	ホームの「地域の協力なくしてホームは成り立たない」との姿勢から、地域活動への参加が積極的に行われている。福祉専門学校の生徒の研修受け入れも多く行っている。ボランティアの受け入れも積極的に行い、入居者の生活を豊かなものに行っている。職員が地元の町会等の情報を集め、毎日の生活の中に活かしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初よりグループホームは地域の方々の協力がなかったら成り立たないという考えのもとに理念が作られている。「心豊かに」、「共に生活し」、「安心とやすらぎ」の理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がホームの仕事へ初めて就く時に理念の説明をし理解してもらっている。毎日の引継ぎの折にも話をしている。職員もホームの理念を理解し毎日の入居者との生活の中で活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	常会費の支払いをしている。毎月の生活の中に地域との付き合いが必ず盛り込まれている。町会（放光寺町会）主催の老人会・ふれあい会食会・文化祭等に参加している。ホームで和菓子教室を昨年度まで開催し、町内の方々と顔なじみの関係作りができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と一部の職員が当たった。管理者研修で自己評価の指導があり、それに則り昨年の自己評価は全職員に各々で取り組んでもらった。		

松本市社会福祉協議会夢ハウスおおくぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで1回行われている。昨年度までは和菓子教室を開催していた。町内の方々や市職員などがホームに集まる機会であったので、あらためて運営推進会議を開かなくても意見の交換ができていた。	○	和菓子教室も一段落したことから、意見交流の場を持つ意味で今後定期的に会議を開催することをお願いしたい。現在取り組みが来ていることの継続と新たな提案等を考え、運営面に繋げていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事などがあると地区のケースワーカーに相談をしている。母体が市社協ということから、情報は速やかに知らされている。また市町村の公的サービスも上手に活用されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホーム便りが発行されている。職員の異動・行事などを載せて家族の元へ送られている。今後は、定期的に発行することが出来るようにしたいと伺った。小遣いの預かりについてはこづかい帳が作られていて、家族の訪問時に見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1人暮らしであった方の入居が多いためか、家族よりの要望・苦情などはあまり聞かれない。入居者の方々は自分の意見を遠慮することなく毎日の生活の中で発言しているように思われた。入居者の意見を素直に聞いている職員の姿が見られた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前任の管理者が定年退職され、新しい管理者に交代された。現場職員も退職された方がいて、昨年からの職員の入れ替わりが行われた。入居者が混乱を起こさないように、古い職員と新しい職員をペアで組むなど工夫している。長年勤められた管理者も登録スタッフとして勤務している。		

松本市社会福祉協議会夢ハウスおおくぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	登録スタッフが11名という構成で、現場職員の研修への参加が難しい状態である。管理者がホーム内での研修を企画し行っている。	○	ホームの中での研修は行われているが、外部研修に関する情報を全職員が共有できるような体制にしていきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本市内で最初につくられたホームなので開設当初はかなりの同業者の見学・訪問があった。現在も見学の受け入れを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試しで入居した方もいたが、ほとんどが1人暮らしの方々に、市・ケアマネジャーよりの依頼で入居している。市ならびにケアマネジャーはホームの特徴を分かっているので、紹介された方はホームに馴染めるような方であり、職員も早期に馴染んでいただけるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	餃子作り・うどん作りなどの手作業を教してもらっている。入居者の方々が職員に、自分の気持ちを正直にぶつけることが出来る関係になっている。訪問調査日の挨拶の時には入居者の方々から自己紹介をしていただいた。		

松本市社会福祉協議会夢ハウスおおくぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り調査による生活暦が詳しく書き込まれている。ホームの入居者の方々はご自分の思いなどを表現できる方々であり、それを職員はしっかりと受け止めていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者ごとの担当職員が決められており、計画作成者と共に意見などを話し合い作成している。入居時には本人の希望・家族の希望を伺っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回の見直しをしている。職員にも確実に伝えられており、家族への連絡もしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ運営法人である市社協のデイサービスのお風呂も週1回利用している。入居者の方々の「温泉に入りたい」という希望から、よそのお風呂に入ることで特別な気分になれる。		

松本市社会福祉協議会夢ハウスおおくぼ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員（6名）がかかりつけ医に変更されている。定期的に往診していただいて全員が診てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明で、重度化した時は特養等への住み替えをお願いしている。ホームとして関連施設への手続きなどの協力は惜しまない。ホームは民家改修型であるので、重度化した場合にはハード面で入居継続が難しい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いは守られている。居室は襖で仕切られているが、しっかりと閉められている。職員の入居者に対する声かけも穏やかで、なおかつ目上の方に対する話し方で対応していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の入居者なので希望など取り入れやすい。一人の希望に入居者全員が寄り添うような毎日である。		

松本市社会福祉協議会夢ハウスおおくぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の当番が決まっています。食事を頂く時に全員で声掛けをしてから食べていた。入居者の方々の力量に応じて食事の支度を手伝ってもらっている。入居者が会話をしながら少しずつ手を出して、職員がそれを見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームのお風呂での入浴については職員が見守り、介助をしている。同じ社協運営のデイサービスのお風呂を週1回利用している。入居者の方より温泉に行きたいという話があり、デイサービスのお風呂を利用することになり、現在は定期化している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアによる体操や押し花の制作に参加している。お茶の用意など家事の得意な方は、自分の家でも働き者のお母さんであったことを思わせるような動きをしている。入居者のいきいきとした表情がとても素敵であった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週月曜日は全員外出の日になっている。配色サービスのお弁当を食べ、その都度目的地を変えながら楽しんでいる。食料品の買出しにも出かけている。ホームの周りは坂道なので、毎日の散歩の結果、入居以前より足腰が強くなった方がいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけるケアはしていない。玄関に人が来るとチャイムがなるように工夫してある。ホーム全体はどこからでも出入りが出来る造りになっているが、職員の気配りによることで鍵はかけていない。		

松本市社会福祉協議会夢ハウスおおくぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に行っている。町内の防災関係者に細かい連絡事項は届けてある。入居者の部屋のそばに、名前をつけたヘルメット・救急袋（軍手・タオル・薬の処方箋明細）が備え付けてある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じ社協の管理栄養士に献立を見てもらっている。夜間はスポーツ健康飲料を飲んでいただくなど、工夫した対応が見られる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン・居間から庭が見渡せる。居間も2カ所あり好きな所で時間がすごせるようになっている。玄関の引き戸には網戸が付けられていて、自然の風が入ってくるように工夫されている。新しい造りではないが、長年の生活がにじみ出るような落ち着いたあるぜいたくなホームである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には住んでいた家よりなじみのものが沢山持ち込まれていた。仏壇やタンス、家族の写真などが部屋に置かれ、その人らしい飾り付けがされていた。		

※  は、重点項目。